

6.19
PLAY
BALL!!

映画

ソフトボーイ

全国上映スタート!



左から賀来賢人さん、江里口市長、豊島監督、永山絢斗さん。

牛津高校の実話が元になった映画「ソフトボーイ」!

5月29日、30日にはドウイング三日月で先行上映会が開催され、約2,000人の観客で賑わいました。



(上) 友樹飲料さん提供の「トマトサイダー」。(下) 牛津高校とローソンのコラボで生まれた「茶ロパン」!

上映中、小城の風景が映る度に歓声や笑い声があがっていました。更に、観客全員にトマトサイダー、茶ロパン、ソフトボーイステッカーの豪華プレゼントが渡され、大変喜ばれていました。今回は映画をもっと楽しめる、裏話をご紹介します!

映画「ソフトボーイ」公式ホームページ

<http://www.softboy.jp/>

5月21日、映画の公開に先立ち、
豊島圭介監督とWケントのお2人が古川知事を訪問！！

公開に先立ち再び佐賀へ！

「やってみらんとわからん！」



主演 ^{か く けん と} 賀来賢人さん
(ノグチ役)

野口さんにも実際にお会いでき、役のイメージが湧きました。映画は実際のストーリーとは別物ですが、みんなとソフトボールをやろうとしていた野口さんたちの気持ちを大切に演じました。



主演 ^{なが や ま けん と} 永山絢斗さん
(オニツカ役)

新しい形のスポ根映画が完成したと思います。“やってみらんとわからん”というのは、いくつになっても同じ。深みのある良い映画ができたと思います。



^{と よ し ま け い す け} 豊島圭介 監督

初の地方ロケで、ロケーションの素晴らしさに感動しました。更に、佐賀県のフィルム・コミッションを始め小城市の方々の、地元の映画をつくろう！という気持ちが伝わってきて感動しました。



県庁で和やかに懇談が行われました。

江里口市長は「とにかく、おもしろい！」映画です。単なるおもしろさだけでなく、仲間がお互い認めあっている進んだ時に協力が得られるという感動があります」と映画の魅力をアピール。
古川知事は自身の学生時代の思い出を語りながら「この映画化は、みんなの想いが一つになり、うまくいった奇跡的な感じがする。やってみよう！という気持ちが日本全国に広がっていくといいですね」と映画の大成に期待を寄せました。

映画公開記念プレゼント！

ハガキに住所・氏名・年齢・電話番号、映画の感想、希望のプレゼント番号をご記入の上、「ソフトボーイ プレゼント係」までハガキ・ファクス・eメールにてご応募ください。

◆応募締め切り

6月30日(水) 当日消印有効

◆応募先

・ハガキ/〒849-0302 小城市牛津町柿樋瀬1100番地1

小城市役所牛津庁舎 総務課 秘書広報係

・ファクス/0952-63-8808 ・eメール/kouhou@city.ogi.lg.jp



①ソフトボーイ特製シャツ (メンズサイズのS) 2名

②ソフトボーイ特製手拭い 10名

③I LOVE OGI 特製Tシャツ&帽子 2名
TシャツはメンズサイズのS。
デザインが異なる場合があります。

リアル・ソフトボーイ！



今から8年前の2002年、全校生徒の8割が女子という牛津高校に男子ソフトボール部が誕生した。

創部の立役者、初代キャプテン・野口毅さんと石橋元教諭に突撃インタビュー！

—男子ソフトボールの創部のきっかけを教えてください？

野口さん 僕は野球経験があったので、2年生の時から女子に交じって練習をしていました。

でも、やっぱり、男子ソフトボール部を立ち上げたいと思って仲間3人で校長先生に直談判しに行っただんです。校長先生は「考えておく」って。同好会として、まずはグラウンドの草むしりや整備から自分たちでやりました。

石橋先生 当時の校長から、牛津高校の活性化のため、男子ソフトボール部をつくりたいと相談があったんです。そこで、野口君たちが2年生の時に、部員獲得のため、いろんな中学に勧誘に回りました。

野口さん たくさんの応援があつて、やっと試合ができる14名が揃い、顧問の澤山先生も来られ、3年生から部としてスタートすることができました。

—最初はもうでしたか？

野口さん 練習内容が大きく変わりましたね。ユニフォームも完成して、初めて練習試合にも行きました。初の練習試合、こっちは素人集団、相手は全国1位、2位の実力校で、力の差は歴然でした。それでも、試合ができたことがとにかく嬉しかったです。

—鬼塚さんとは幼馴染みなんですか？

野口さん 実は高校に入ってから同じ食品調理科だったことで仲良くなりました。

—創部の苦労がありましたか？

野口さん 好きなことだったので、楽しかったです。何かを新しく「つくる」という経験は、今の人生にも活かされているように思います。

自分たちは試合もまともにできなかったのに、今も後輩たちが活躍してくれていることが嬉しいです。

芦刈っ子の野口さん。自分の店をもつという夢を叶え、現在、佐賀市鍋島でもつ鍋屋「くら蔵」を経営されている。鬼塚さんは中華料理の勉強のため、現在シンガポールに滞在中とのこと。高校時代、白球を追いかけたソフトボーイたちは、今も人生という名のマウンドで戦い続けている。



ソフトボーイのポスターを見ながら当時のことを語り合うお2人。

小城市一体で協力!!



小城市 商工観光課・観光協会の皆さん

小城での実話を元にした映画ということで市としても、全面的に協力することになり、スタッフ70人分の食事とロケ地の段取りや交渉などを協力しました。

食事は市内のお弁当屋さんや「花の会」やほたるの郷の会員の皆さんに協力していただき、佐賀県ならではの「シシリアンライス」、「からっパター」・羊羹など、大変喜ばれました。

また、牛津町の株式会社 友桝飲料さんのサイダーが色んなシーンで登場していますが、佐賀の企業にも快くご協力していただきました。

印象に残った撮影はアパート（小



スイカ、いちご、パイン味などのサイダー!

城町)の撮影です。雨を降らすシーンでは、消防団の方に待機していただき、夕方から準備が始まって撮影が終わったのは、夜の1時半。住民の方の協力もあって、無事撮影することができました。

美しい小城の風景が折り込まれた映画がいよいよ公開となりました。全国に小城のことをアピールしていきたいですね。

(商工観光課 小林 談)



小城市駅前でも撮影が行われました。映画の中では駅名が「牛津駅」に!



芦刈町での撮影。永山さんの手には友桝飲料さんのサイダーが!

牛津名物!?カルチャー焼



米穀販売 有浦商店の皆さん

映画の中で「牛津名物カルチャー焼」としてはなわさんと山口紗弥加さん夫婦が営むお店の元となったのが牛津町の有浦商店さん。

有浦さんがカルチャー焼を始めて、今年で何と22年。今では市内外から多くのお客さんがこの味を求めて来店されるそうです。

野口さん、鬼塚さんとも親交が深く、「彼らは部活終りに常に5〜6人で来て、勝っても負けても、色々なことを報告してくれました」と当時の思い出を懐かしそうに語ってくださいました。

「去年の春くらいに、彼らのことが映画化されると聞いてびっくりしました。更にうちの店を使わせて欲しいと言われ本当に驚きました。店内の装飾は自由にやってみてもらいま

た。スタッフの方が撮影の1週間前から毎日店に来て準備されてましたね」と。

「撮影当日は朝5時からカルチャー焼を200個くらい焼きました。撮影は朝の7時から18時くらいまで、1日かかりでしたね。店の奥から、特等席で見ました。この映画を通して、小城の良さが伝わるといいですね」とっこり。



店内での撮影には小城市のあの人も出演!ぜひ探してみてください!!



撮影時の外観。今も「オックスフォード」の看板が飾られています。